

## 令和6年度 介護保険事業の特徴

本町の介護保険事業について、地域包括ケア「みえる化」システムを使用し、近隣町および人口規模近似町村ならびに人口密度近似町村と比較し、本町の介護保険事業の特徴と要因の分析を実施しました。

## 1. 人口と世帯数

比較した町村は、近隣町として南越前町、人口規模近似町として山口県上関町、人口密度近似町として静岡県川根本町の3町です。

	人口（人）	世帯数	面積（km <sup>2</sup> ）
池田町	2,186	875	194.65
南越前町	9,448	3,335	343.69
山口県上関町	2,190	1,320	34.69
静岡県川根本町	5,700	2,661	496.88

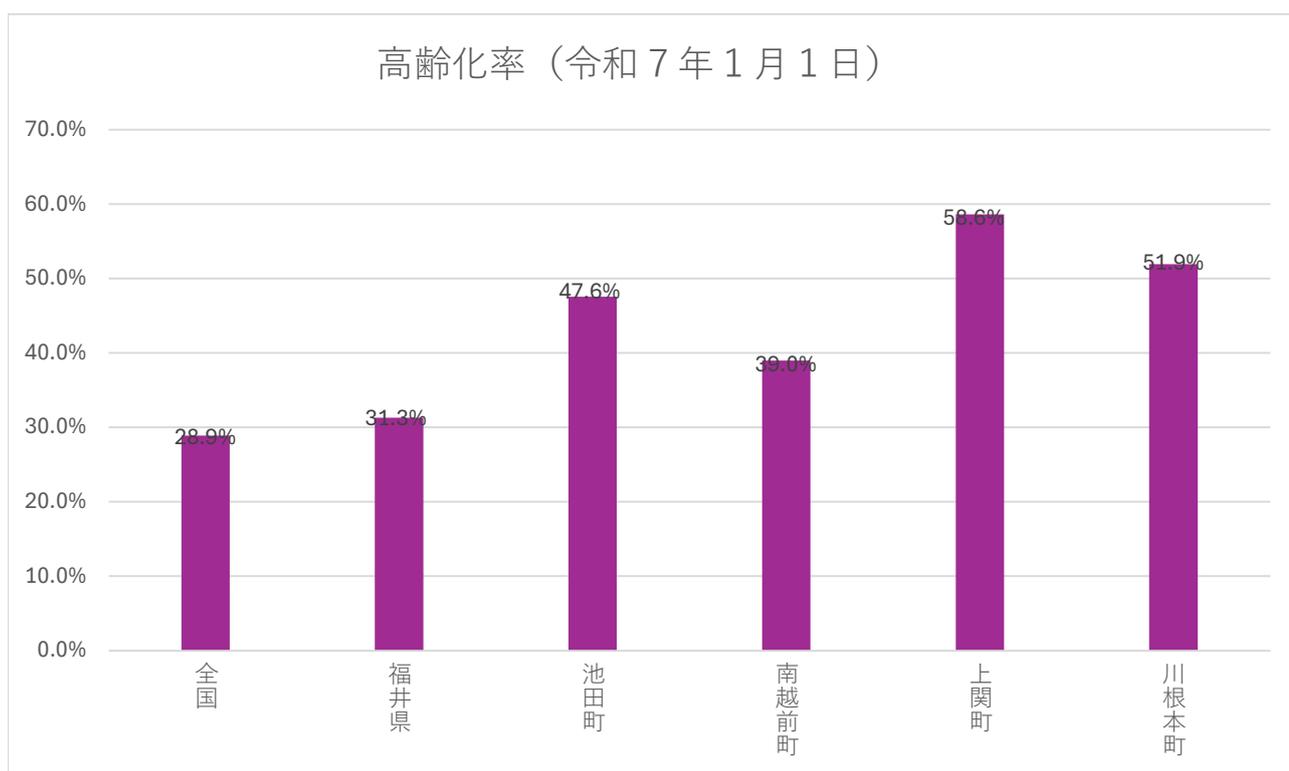
上関町



川根本町

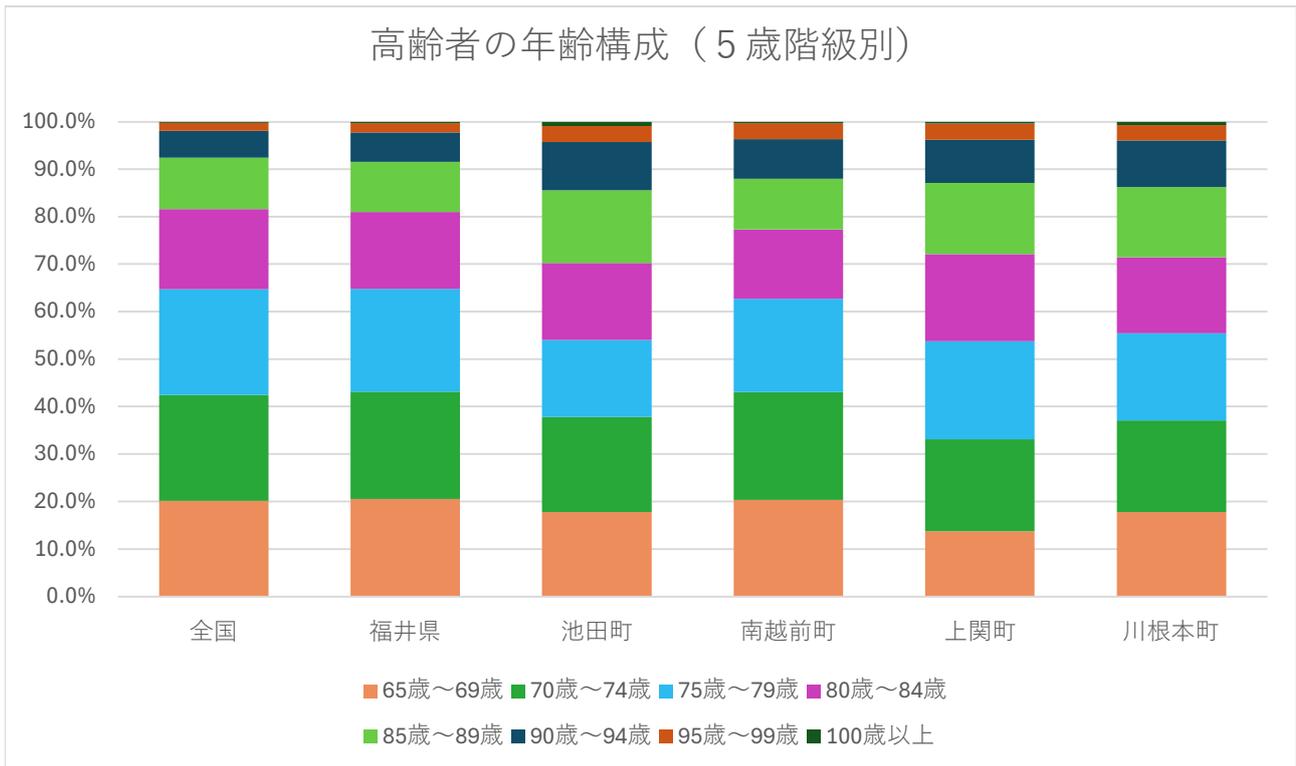


## 2. 高齢化率



池田町の高齢化率は47.6%であり、福井県内で最も高い値となっています。県内で2番目に高齢化率の高い南越前町と比べても8.6%高い値となっていますが、人口規模が近い上関町、また人口密度に近い川根本町よりは低い値となりました。

### 3. 高齢者の年齢構成



池田町は、上関町、川根本町とよく似た構成となっており、全国と福井県の割合はほぼ同じで、南越前町も若干85歳以上の割合が高いが全国の構成と似ています。

池田町では高齢者の中でも80歳以上の高齢者の割合が高く46%となりました。全国の80歳以上の割合は35.3%であり、池田町の高齢者の年齢層は非常に高くなっています。

(出典)

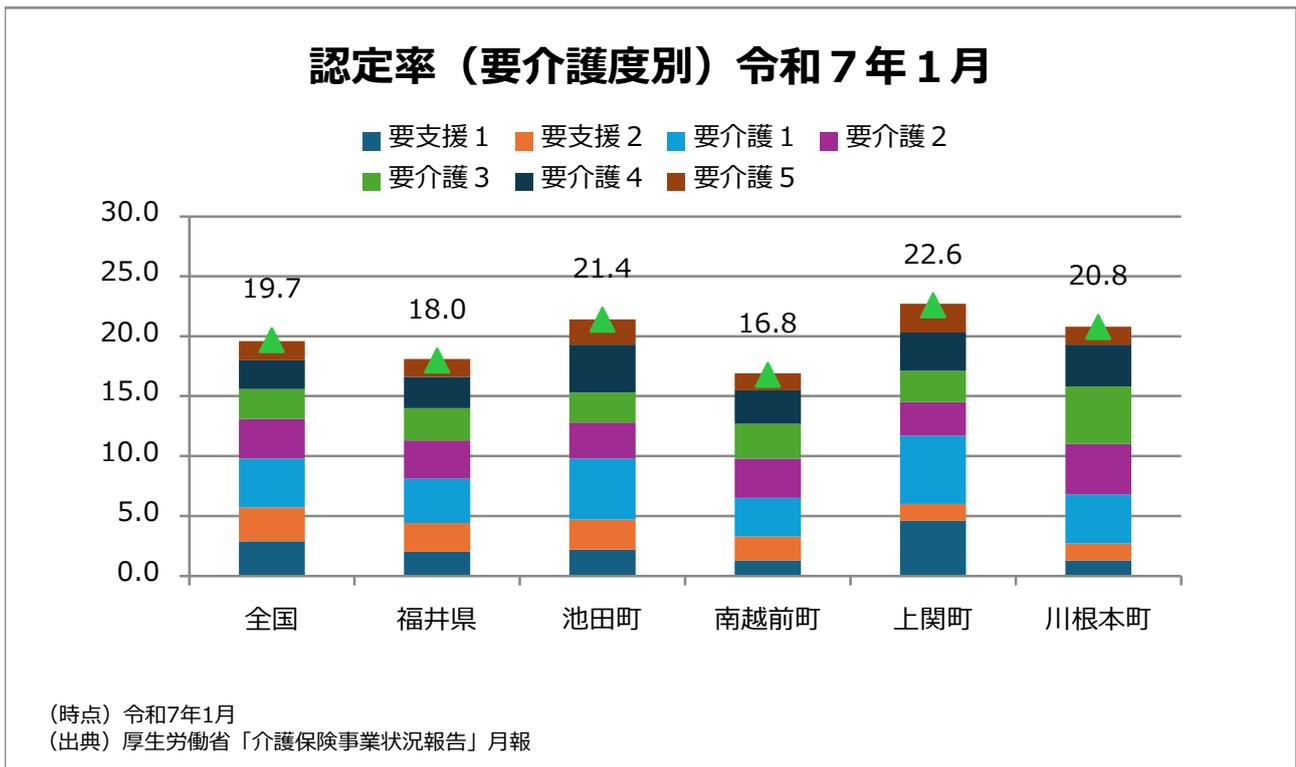
住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査

【総計】市町村別人口、人口動態及び世帯数（令和7年1月1日現在）

【総計】市町村別年齢階級別人口（令和7年1月1日現在）

国土地理院 面積調（令和7年1月1日時点）

#### 4. 認定率

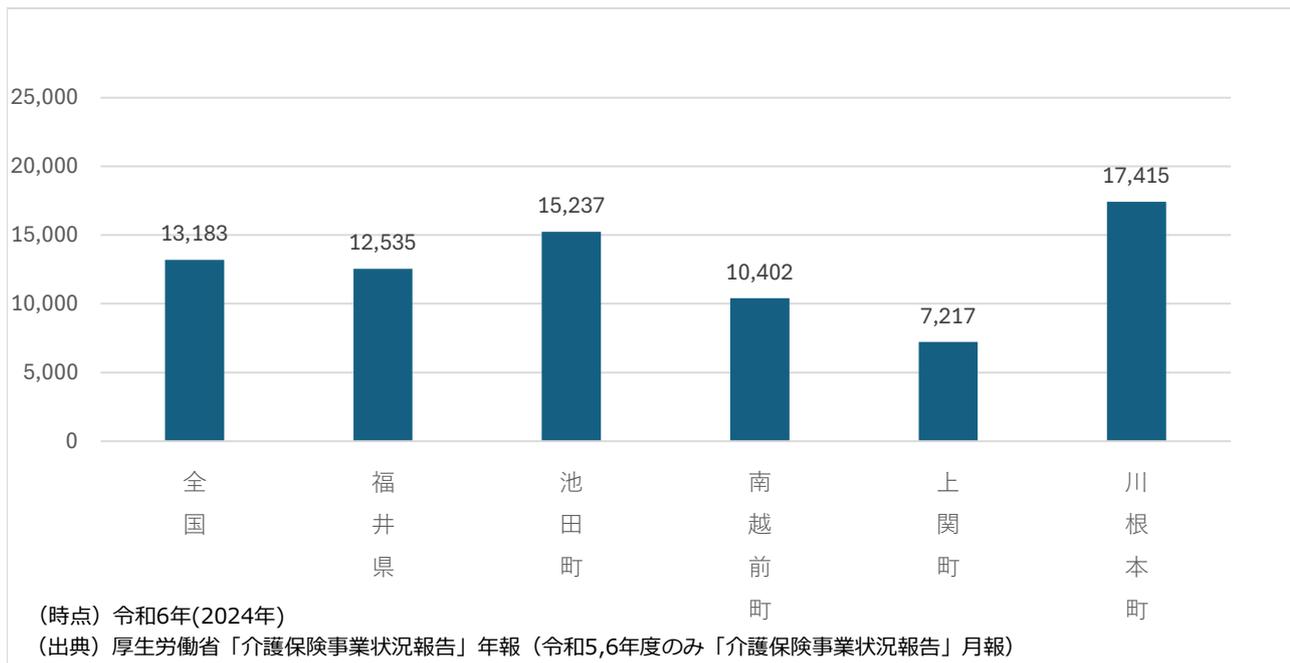


高齢者の割合が高いため、本町の要介護認定率は21.4%と、全国および福井県と比べて高い数値となりました。要介護度別に見てみると、重度（要介護4、要介護5）の認定率が6.1%と全国4.0%、福井県4.1%と比べて高い数値となっています。

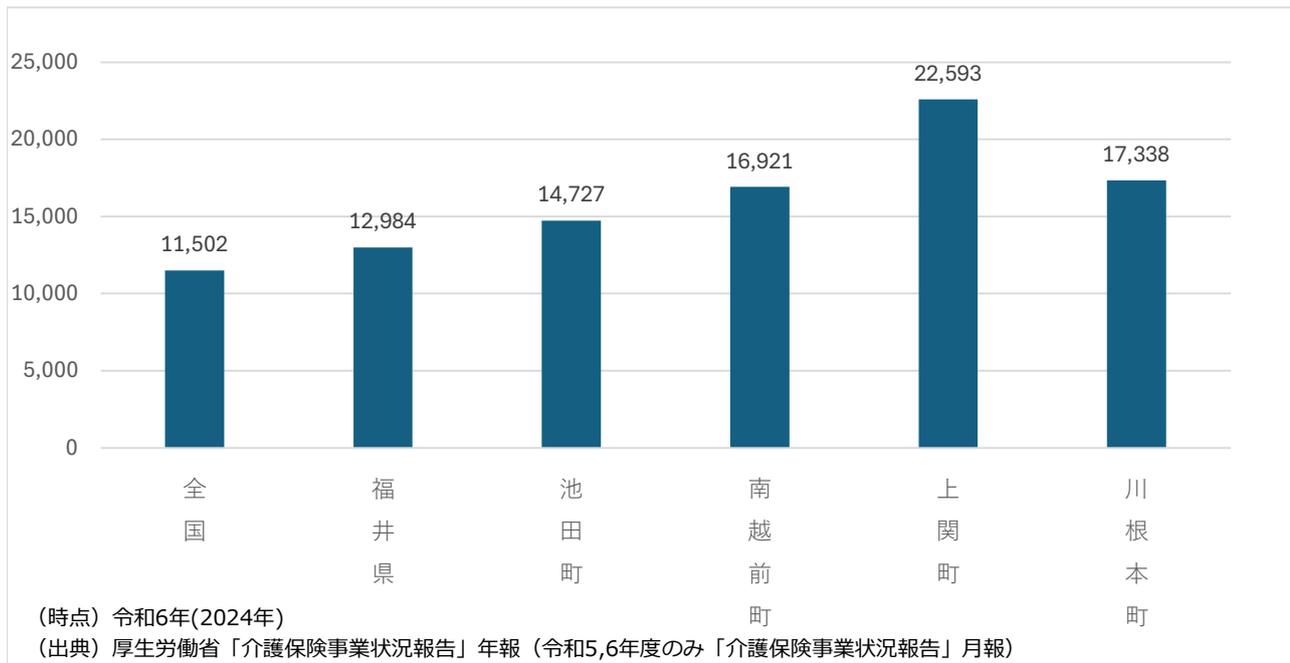
高齢化率の高い上関町と比べると、全体では認定率は本町が若干低いですが、その内訳は軽度（要支援1～2、要介護1）の認定率が本町9.8%、上関町11.7%、重度者の認定率が本町6.1%、上関町5.6%と、上関町と比べて本町は軽度者の認定率が低く重度者が高いことが分かりました。

## 5. 第1号被保険者一人あたりの給付月額

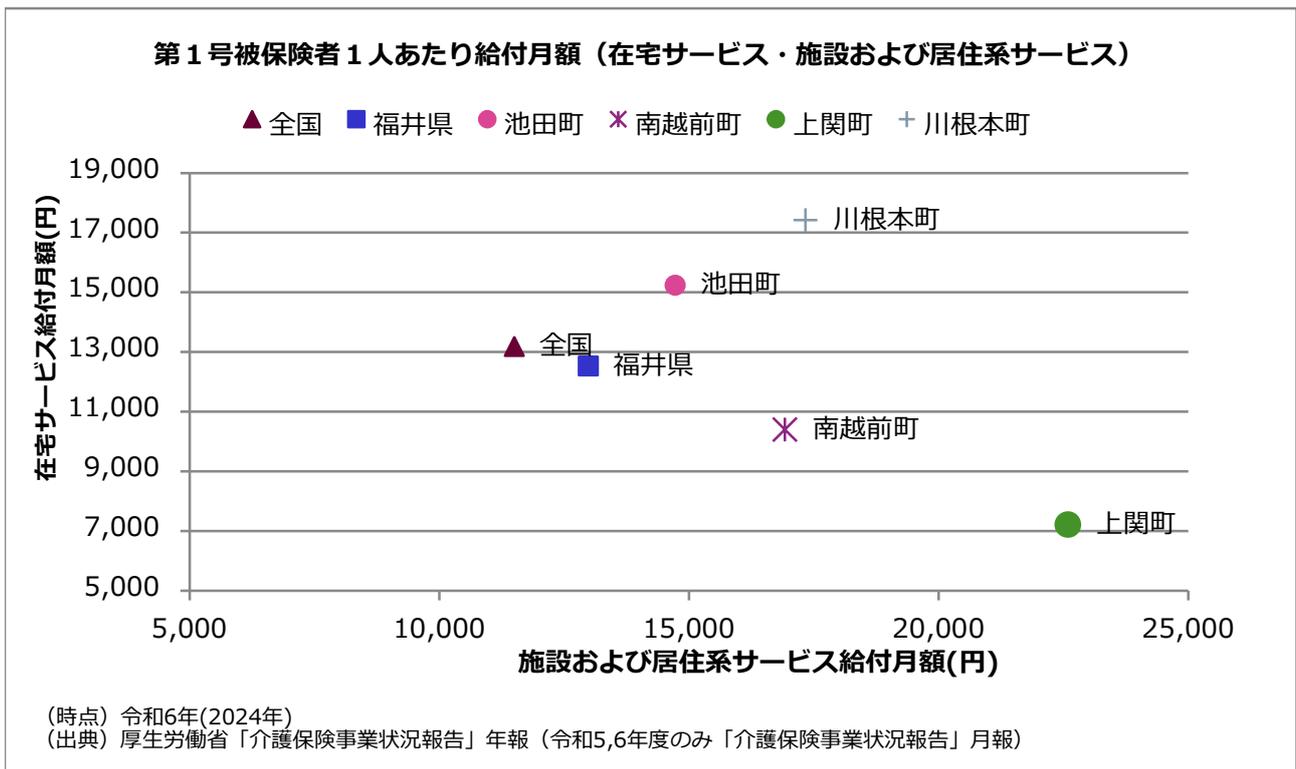
### ■在宅サービス



### ■施設・居住系サービス



■在宅サービスと施設及び居住系サービスの給付月額の分布

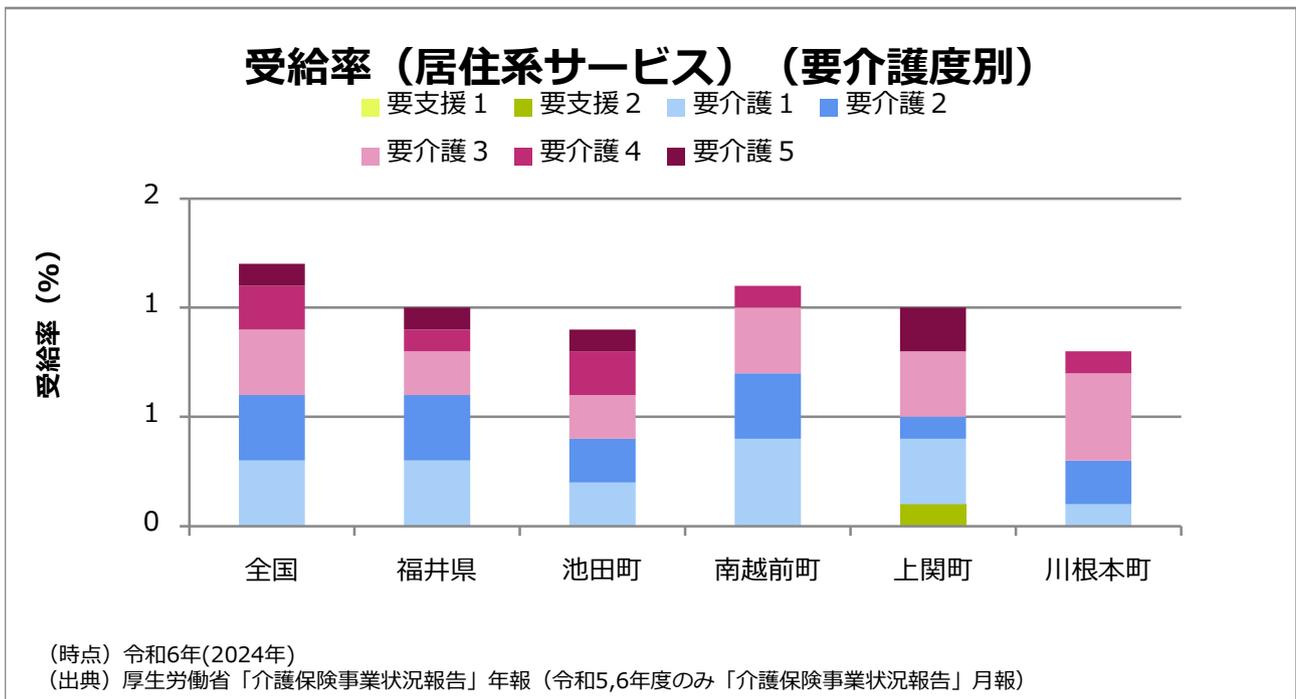
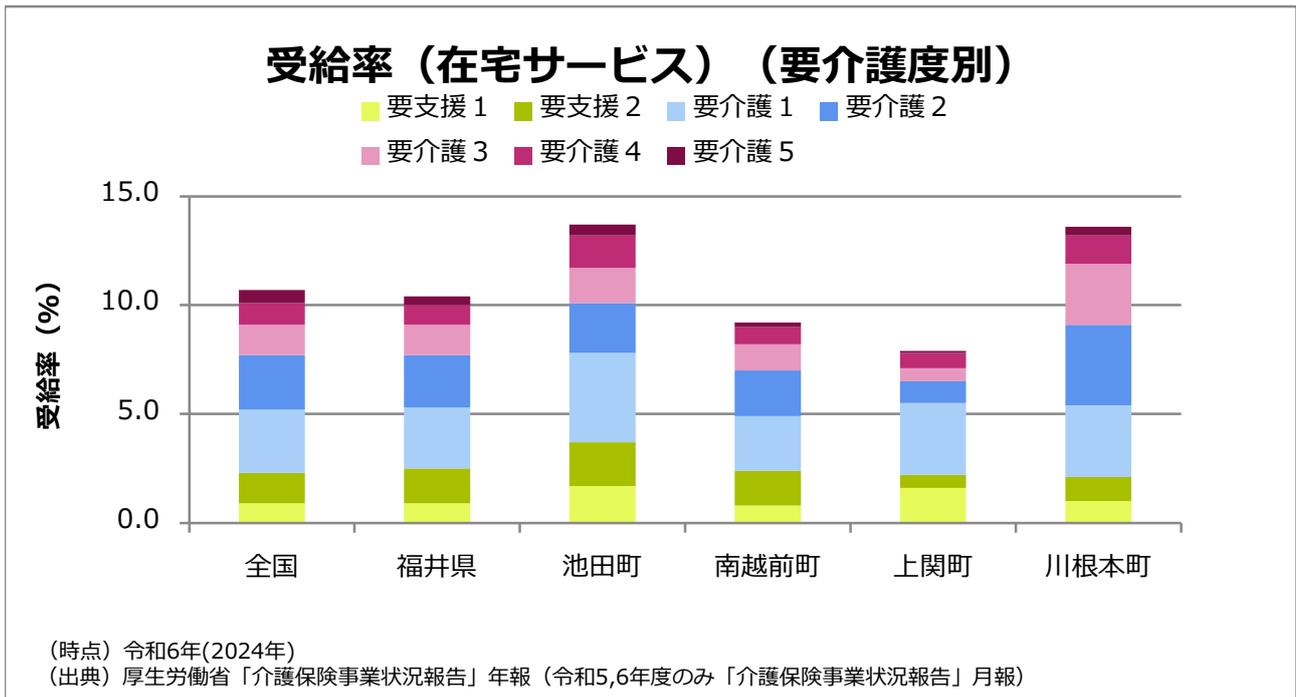


認定率が高いこともあり、本町の第1号被保険者一人当たりの給付月額は、在宅サービスおよび施設・居住系サービスとも、全国および福井県より高い数値となっています。

南越前町、上関町と比べると、在宅サービスは本町の方が高いですが、施設・居住系サービスは低い状況となっています。

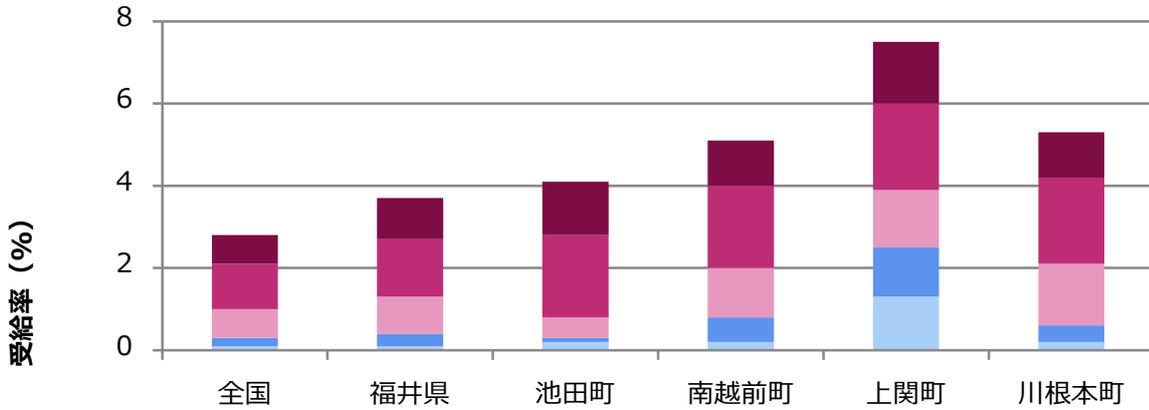
全国と比べると本町では在宅サービス、居住系サービス共に潤沢に使用していますが、高齢者の年齢構成、およびサービス給付の状況の似ている川根本町と比べるとその給付額はやや抑えられています。

6. サービス受給率（要介護度別）



## 受給率（施設サービス）（要介護度別）

■ 要支援 1 ■ 要支援 2 ■ 要介護 1 ■ 要介護 2  
■ 要介護 3 ■ 要介護 4 ■ 要介護 5



（時点）令和6年(2024年)

（出典）厚生労働省「介護保険事業状況報告」年報（令和5,6年度のみ「介護保険事業状況報告」月報）

サービス種類別の受給率を見てみると、全国および福井県と比べて、本町では在宅サービスの受給率が高く、居住系サービスでは低い状況になっています。

南越前町、上関町と比較すると、本町は在宅サービスの受給率は高く、施設および居住系サービスは低い状況になっています。

川根本町と比較すると、在宅サービスの受給率の総数は近似していますが軽度者の割合は本町が多くなっています。施設サービスでは本町ではほとんど重度者となっていますが、川根本町では中度者の割合が大きくなっています。

## 7. まとめ

本町の特徴として、出生率の低下と自然減による人口減少が進んでおり、年々高齢化率が高くなっており、県内の他の市町と比べて高齢者の年齢構成も年齢層が非常に高い状況となっています。そのため、介護認定率も県内では高い値となっています。

サービスの受給としては在宅サービスの利用が高く施設・居住系サービスの利用はやや抑制傾向にあるようです。比較町村とした上関町、川根本町とは地理的条件等に違いがあるため一概には言えませんが、本町では要介護度が軽度の状態で在宅サービスを適宜利用し、住み慣れた自宅での生活を続けることで、施設サービスの利用が抑制されていると考えられます。

持ち家率が高く、集落自治を担う一員として社会活動への参加も求められる土地柄のため、人と人とのつながりのある環境での生活を続けたいとのニーズが高く、第9期介護保険事業計画において地域と高齢者が協働して行う健康寿命の延伸や介護予防を目標とした取組を各種行っています。地域のニーズとそれに対応した介護予防の取り組みが一つの要因として在宅サービスの受給率の高さ、施設・居住系サービスの受給率の低下に現れていると考えられます。